

2016.12.19 「第3回学生コンペ」 平成28年度賛八会学生コンペを建築学部との共催にて行いました。

「平成28年度 第3回賛八会学生コンペ」の報告

第2事業部会

開催の状況

賛八会の事業活動の一環として「第3回賛八会学生コンペ」を平成28年夏頃に役員会により決定し、事業・運営の役員と建築学部の先生方とで進め9月の末より提出日11月初め迄(約1ヶ月強)に下記の課題が発表され、49作品の個人及びグループから提出されました。

コンペ課題 「再生段ボールの茶室」

近畿大学建築学部・賛八会共催
第3回 建築学部設計コンペティション
協力:大和板紙株式会社

課題 「再生段ボールの茶室」

課題

サステナビリティが社会的な主要テーマになって久しい中、建築を学ぶ学生にとってサステナビリティに貢献する具体的な取り組みが求められている。

紙は現代において最もリサイクルが進んでいる素材である。サステナビリティを素材のリサイクルを通して考えるとき、再生紙を使って魅力ある空間をつくりだせる可能性を示すことは、「最もサステイナブルな建築素材」としての紙の可能性を示すことである。

今回協力いただく大和板紙は、私たちが近畿大学で研究や演習、試験や管理業務に日々使用している多くの紙を回収し、再生している企業である。素材として、大和板紙の再生ダンボール(「ミルダン」)を用いる。牛乳パックなどの飲料容器の製造過程で発生する、真っ白な高品質紙の端材を再生して作る「ミルダン」は、一般のダンボールより高い強度を持ち、表面だけでなく芯材まで白という特徴を持つ。

一方、千利休がつくりだした「茶室」という建築の形式は、世界でも類を見ない最小限の空間でできた人と人、人と環境の対話の場である。千利休の茶室が、紙を通して探光する障子窓を大きな特長としていたこと、また、千利休の設計した待庵の内部壁の腰の部分には紙が張られていたことを考えると、茶室はもと紙と深く繋がっていたともいえる。このコンペティションではさらに進めて、構造や空間構成に紙の可能性を生かしてほしい。また、ここでは、茶室を、実際にお茶を点てる場ではなく、対話のための最小限空間と考え、千利休のような自由な発想で設計してほしい。

1等賞は、実際に1階ギャラリーに建築する。サステナビリティに貢献する、人と人、人と環境の対話の空間の、新しい可能性が提示されることを期待している。

計画条件

建築学部1階ギャラリーの右側のエリアに計画する。

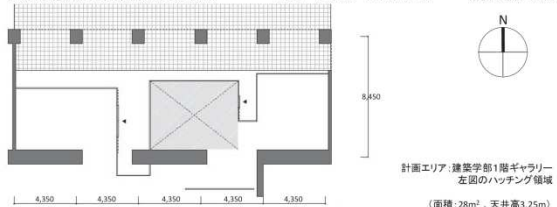
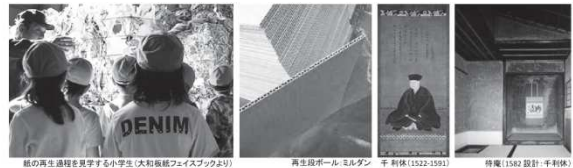
素材:再生段ボール(「ミルダン」標準サイズ821mm(芯材流れ方向)X1,120mm、生産最大サイズは芯材流れ方向には運搬可能な範囲で制限なし。幅長1,100mm、3種類のミルダンのどれを使用しても、組み合わせてもよい)。
材料として再生段ボールを主とし、固定等のため一部に他の材料を使っても良い。事務局にサンプルを設置する。

提出物

<A1版使いの紙>
提案コンセプト、設計趣旨、平面図・断面図(縮尺は自由)。その他パースやドローイング、模型写真等で設計内容をグラフィカルに表現すること。名前、学籍番号は裏面に記入し、表に応募者を特定できる内容を記入しないこと。

応募資格

提出時に近畿大学建築学部または、大学院総合理工学研究所に在籍していること
(複数人で応募する場合も全員が有資格者であること)



結果発表・表彰式・展覧会

審査結果は受賞者に通知するとともに、建築学部掲示板、建築学部HPおよび、賛八会HP、大和板紙HPにて発表する。表彰式12月中旬予定。展覧会2月予定。

提出先

33号館 建築学部事務局

締切

2016年11月18日(金) 17:00

審査委員

審査委員長 岩前 篤 (近畿大学建築学部学部長)
審査委員 松本 明、坂本 昭、戸田 潤也、松岡 聡、堀口 徹、垣田 博之 (近畿大学建築学部)
賛八会 役員の方々(4名予定)
事務局 垣田 博之 (近畿大学建築学部)

賛八会(さん八会)

建築学部が設立された第1期生からなる同窓会で現在の建築学部同窓会卒業生部会の連絡。
<http://sanhachikai.com>

大和板紙株式会社

大阪府柏原市の再生紙板紙メーカー。近畿大学から出る紙の回収と再生も一括して行っている。再生段ボールを提供。
<http://www.ecopaper.gr.jp/daiwai/>

2016.11.26 33号館8階会議室にてコンペ作品の審査を行いました。

審査は、事前に建築学部の先生方が49作品中20数作品程に絞り込んで頂いたのでスムーズに選定できました。

賛八会よりの審査員は、寺川政司・小栗祥弘・植木秀典・伊藤大輔4人が参加した。



33号館での審査風景

2016.12.19 19号館にて表彰式を行いました。

最優秀賞 1作品

優秀賞 4作品

特別賞（賛八賞）1作品

佳作 13作品 の表彰を行いました。



最優秀賞受賞者の表彰